

1. 諸教派の兼牧の状況とその理由

『現代宗教 2014』p.115-138「老年期の後継者 ―昭和一ケタ世代から団塊世代へ移りゆく宗教指導者と信者たち―」の中には、各教派の牧師、無牧、兼牧状況が記されており(表3 参照のこと)、表から分かる通り、既に一部の他教派では3割の教会が兼牧の状態になっていることがわかる。兼牧する理由として、他教派では「教役者不足」と「教会財政上の問題」があるようだ。

表3 プロテスタント各教派の牧師、無牧、兼牧状況 (教会数上位10教派)

教派	牧師 (人数)	無牧 (教会数)	兼牧 (教会数)	合計 (教会数)	兼牧率 (%)
日本基督教団	1,548	36	115	1,699	6.8
単立教会	655	22	40	717	5.6
日本バプテスト連盟	300	22	9	331	2.7
日本聖公会	182	5	113	300	37.8
日本同盟基督教団	227	1	19	247	7.7
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	211	4	5	220	2.3
日本福音キリスト教会連合	178	16	7	201	3.5
日本ホーリネス教団	145	3	27	175	15.4
日本キリスト改革派教会	120	5	19	144	13.2
日本福音ルーテル教会	87	13	43	143	30.1
プロテスタント各教派の合計	6,916	276	713	7,907	9.0

出所: (柴田,2012:39)の一部、筆者が一部改変。兼牧率=兼牧教会数÷合計教会数)

日本バプテスト連盟においては、2020年10月28日現在で無牧師の教会は34教会、伝道所は7あり、連盟加盟319教会・伝道所のうち1割以上の教会・伝道所が無牧師であることがわかる。よって、無牧師教会の解消は日本バプテスト連盟の課題である。

この数年、西南学院大学神学部の入学者0名が続いた。神学校で学ぶ者が少ないということは、将来の教役者が不足するということである。よって、日本バプテスト連盟でも教役者の不足は現実的な課題である。また、資料に記している通り、北九州地方連合においても教勢、教会財政も減退している。

しかし、「教役者不足」と「教会財政上の問題」を軸にして兼牧を「推進」することは、あまりにもネガティブな発想と言わざるを得ない。もう少し、ポジティブな意味での兼牧のかたちが模索されるべきである。

2. 北九州地方連合で兼牧を考える

2.1. 経験した痛み

北九州地方連合には2000年には31教会・伝道所が存在していたが、この20年の間に田川教会、上穂波教会、戸畑教会が消滅・解散した。特に戸畑教会は連盟結成16教会の一つという歴史ある教会であったゆえに、その消滅は連合内に大きなショックを与えた。戸畑教会が消滅した理由の一つとして、連合内の教会との「交流」がなく、「孤立」していたことが挙げられる。この経験から連合諸教会が会っていくプログラムが強く推進されてきた。もし、戸畑教会と連合諸教会がもっと深い交わりを持っていたならば、消滅は避けられていたかもしれない。この痛みの経験は、北九州地方連合の以下の取り組みに繋がってきた。

2.2.北九州地方の取り組み

- A. 一歩プログラム: 連合諸教会・伝道所がパートナーになり互いの教会の礼拝などに相互訪問するプログラム。2000年代前半に連合伝道委員会によって行われていた。(戸畑教会消滅前から行われていた)
- B. 教会おじゃまします: 宣教支援センターが始まって取り組み始めたプロジェクト。連合 28 教会全ての教会を連合諸教会の会員が実際に訪問するプログラム。28 教会全てを訪問し終えており、毎回、平均で 15~16 教会の参加があった。
- C. 交流プログラム: 連合内の複数の教会で行われるプログラムに支援するもの。上限 3 万円。このプログラムを通して、連合の複数の教会が新しい取り組みや活動を生み出している。
- D. 地域交流: 現在、遠賀川流域の 5 つの教会(飯塚、直方、若松、中間、八幡)が互いの教会について分かち合っている。また、連合発信ではないが、大分地区 3 教会(大分、臼杵、別府国際)がかつてより自発的に交流を持っている。

上記の取り組みによって北九州地方連合は連合内の教会の取り組みを知り、教会員同士も知り合う機会となった。この互いを「知っていく」ということが兼牧、もう少し踏み込んで教会の合同において大きなファクターとなると個人的には考えている。

3.兼牧に向かっていくために

3.1.バプテスト教会として牧師を立てる

兼牧は単純に牧師が二つの教会を牧会することではないはずである。兼牧は兼牧されている教会が力を合わせて一人の牧師を「自分の教会の牧師」として立て、励まし、祈り合っていく必要がある。この点が損なわれると、牧師はただ「二つ」の教会に関わるだけで疲弊していく。そのために、兼牧される教会は「互いを知り」、「協力すること」が求められる。それは、兼牧が始まってからでは遅い。兼牧する前から、そのような意識がなければ、教職制を取っていないバプテスト教会は牧師を牧師として立たせることは困難であろう。

3.2.共通のミッションを見出す

互いの教会を「知ることは」、教会の「共通のミッション」を見出すことにつながる。二つの教会が一人の牧師を共通の牧師として立てる時に、その二つの教会が持っているミッションがどれほど「共通」しているかは問われる。バプテスト教会は牧師主導でなく、信徒の教会であるのだから、信徒たちが教会のミッションをどう捉え、考えているかを明確にしておかなければならない。そして、そのミッションに応える人間が牧師として立てられていく。よって、兼牧を目指す教会のミッションが全くバラバラであると、協働で一人の牧師を立てていくことが難しくなる。よって、連合諸教会が互いに知っていく中で、同じミッションを持っている教会があることに気がついているならば、そのミッションに応えることができる牧師を協働して立てていくことに繋がる。また、ミッションだけでなく、救済論や主の晩餐理解なども確認されておくべきだと考える。

4.兼牧を実際に考えてみる

4.1.地域的なこと

北九州地方連合 28 教会は北九州市内で密接している。中規模都市にこれほど教会が密接して存在することは珍しい。これは、兼牧を考える時には優位に働く。牧師が物理的に関われる時間は限られている。しかし、北九州地方連合では近いところでは車で 5 分～10 分以内に教会が点在している。これは兼牧をする上では、牧師の負担減につながる。

4.2.財政的なこと

全ての人の最低限の生活が守られなければならないように、牧師もまた生活が守られなければならない。兼牧をするなかで、例えば經常会計 400 万円の教会が協力した場合、經常会計は単純計算で 800 万円となる。經常会計が 800 万円あるならば、牧師給を負担することは可能であろう。牧師の生活も守られる。また、教会維持(建物など)のためにも財政はないよりもあったほうがいい。よって、会計も二つの教会が別々に持つよりも、二つの教会の会計を合算して、一つの会計とした方が良いと考える。

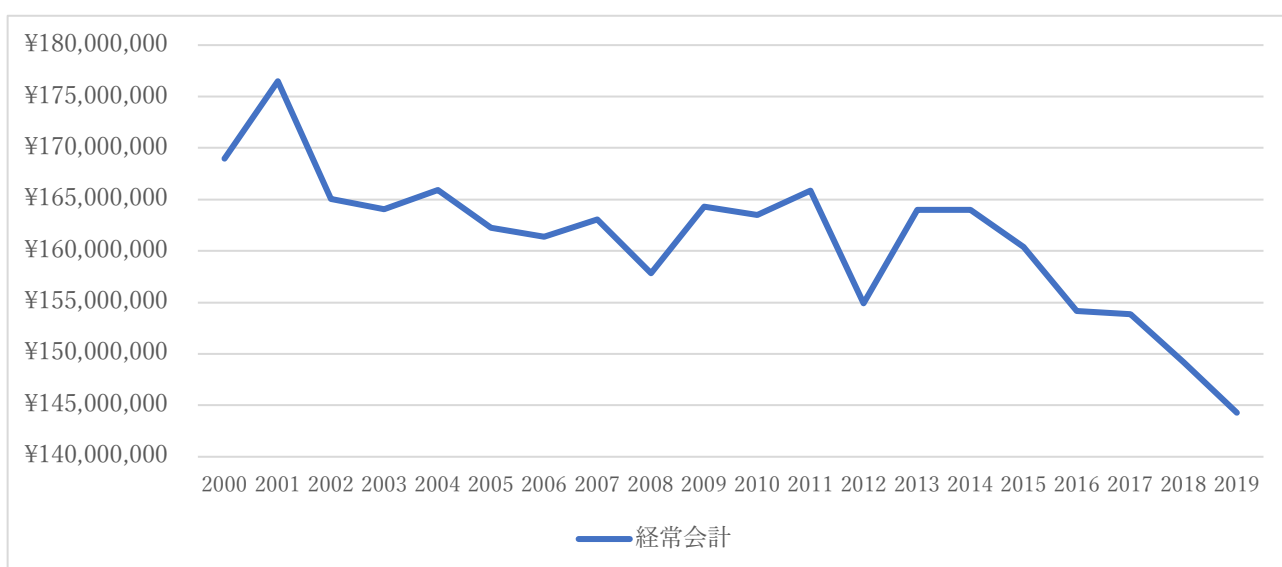
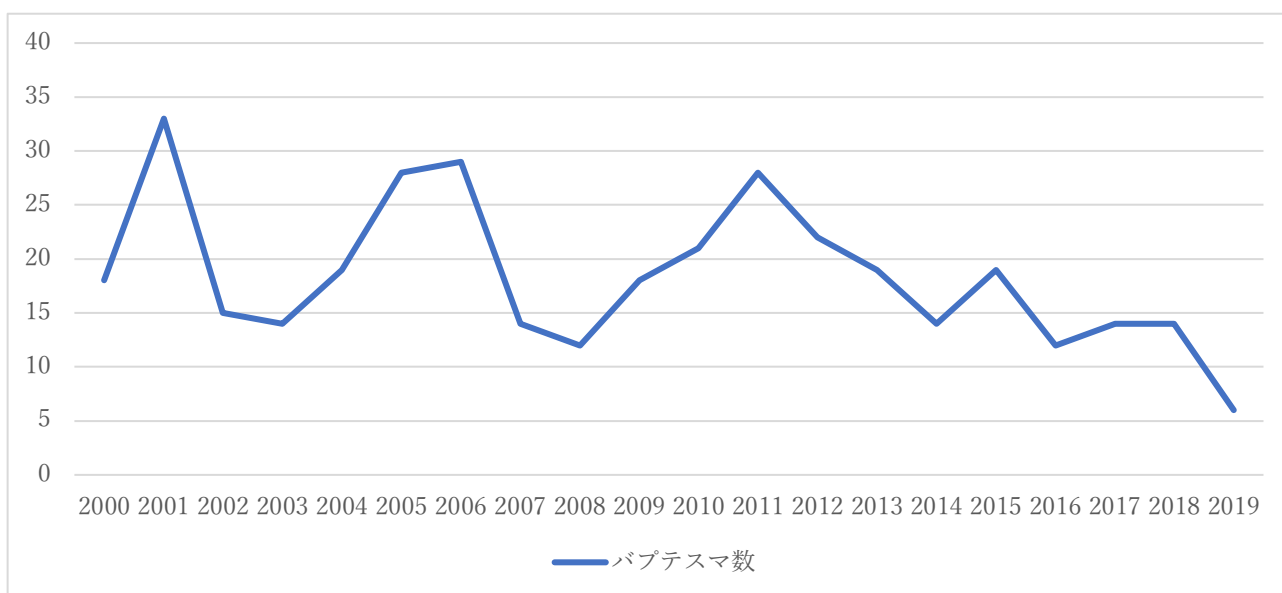
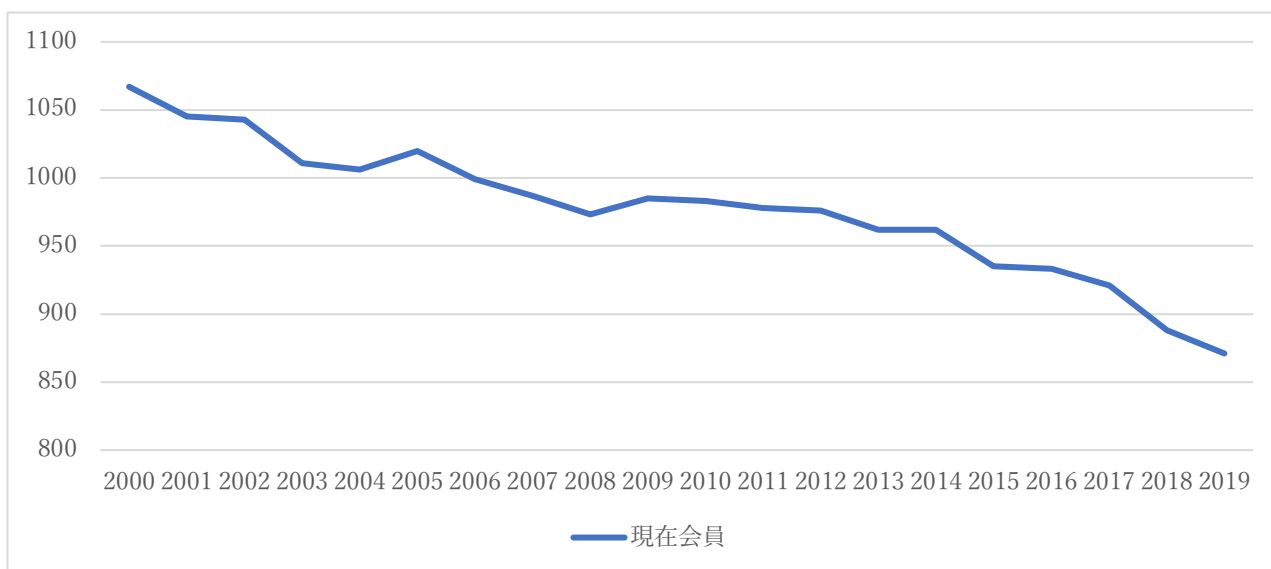
4.3.人材的なこと

これから多くの献身者、教役者が生まれることが望ましいが、それが叶わない場合、リソースは限られる。限られたリソースを豊かに用いる視点を兼牧は与えてくれる可能性がある。

4.4.礼拝のこと

兼牧の課題として礼拝をどうするかということが言われてきたように思う。日曜日の午前中に二つの教会で一人の牧師が宣教することは不可能であったからである。しかし、コロナショックを経て、多くの教会がインターネットを用いた礼拝ライブ配信を行うようになった。これは、プロジェクターなどを用いれば、同時に一人の牧師が二つの教会で宣教できるようになったということである。兼牧したとしても、教会が IT 機器を用いる工夫をすれば日曜日の午前中に礼拝を守ることができる。

[北九州地方連合教勢～現在会員とバプテスマ数～]



北九州地方連合の教勢を 2000 年～2019 年で確認すると上記のように右肩下がりになっていることがわかる。この 20 年で約 160 名現在会員が減少している。このペースはおそらくまだ緩やかな方で、これからは召天者がより増えるためにもっと減少スピードが加速すると予想される。

受洗者はその年度でまちまちではあるが、やはり緩やかに減少傾向である。2000 年頃から北九州地方連合の教勢の低下が総会資料などで言及され始め、そこから教勢が大きも盛り返したことは一度もない。よって、北九州地方連合はこれからも教勢は減少し続ける可能性は高い。

教勢の減退は、諸教会の経済事情とリンクしており、表の通り、2000 年度では、北九州地方連合全体で 1 億 7 千万円あった、經常会計は 2019 年度では 1 億 4 千 5 百万円を切っている。また、年間經常会計 400 万円を切っている教会は 2020 年度現在で連合 28 教会中 13 教会に及んでいる。經常会計全てを牧師給与とすることは不可能であり、400 万円の 80%を牧師給与にあてた場合、年間 320 万円で牧師は生活することになる。ここから税金や厚生年金を支払っていくと、手取りの牧師給は更に少なくなる。単身者ならば生活可能水域かもしれないが、家族がいる場合、牧師給与だけでの生活はそうとう厳しいと予測される。

2021年1月30日

バプテスト北九州地方連合教育委員会集会

「兼牧」を考える ―北九州連合、連盟、バプテスト、聖書

西南学院大学神学部教員 濱野道雄

1. はじめに

- * 厳密に言えば「兼牧」というより、「複数教会の協力による一人の教役者の招聘」
- * 経済的な課題、献身者の減少と言うは重要だが、それをも超える宣教論を目指して
神の国 > 教会 (モルトマン)
教会自体の組織維持が宣教の「目的」ではなく、神の国が宣教の「目的」
すでにある教会、献身者の組み合わせと協力が、信仰的、实际的に可能ならば、宣教のために、兼牧しない理由もない
「貧しいから、幸い」ではなく、「貧しくても、そこから神による解放が始まる」
- * 兼牧以外の選択肢

バプテストは牧師を招聘しなくても信徒の教会として成立（他の教会や宣教支援センター、宣研や九バプの資料、またインターネット礼拝によるサポートも含む）
ただし、専任者の顔が見える良さ：

教会合同（両方の解散による新教会、伝道所に戻る等も含む）

兼職（教会による NPO 設立等も含む）：アメリカのバプテストでは牧師の半数が兼職で、ライフ・ワーク・ミックスをもう少し積極的に考えても良い。実際、経済的に牧師を支える「基準給」を出せる教会は連盟の三分の一以下だが、四分の三はフルタイム。ただしアメリカと日本はまだ違い、非正規の労働条件は悪い。

連盟における「牧師」タイトルをもつ人（2019年度で361名）の内

「フルタイムで有給」 74%

「フルタイムで無給（年金受給牧師等） 2%

「パートタイムで有給」 11%

「パートタイムで無給（協力牧師等）」 12%

（以下、具体的なデータに関しては宣教部の情報提供にお世話になりましたことを感謝します。）

2. 現状

1) 北九州において

本山先生「北九州地方連合における兼牧の可能性について」

2) 連盟において

他教派が90年代に兼牧を進めたが、連盟としては行わなかった(2.7%)
 一人の主任が兼任するケースは、伝道所や複数教会(連合を越えて)における1
 つの教会のケースを除いて、現在実際には少ないが、協力牧師や副牧師による
 ケースはいくつかある。→ 小規模教会と大規模教会の兼牧ケースの可能性
 牧師は生活できているのか?

500万以下から明確に厳しい。300万未満ならば兼牧等の選択が必要。

連盟における、フルタイム有給牧師の居ない教会率

経常献金 1000 万以上	4 %
999~800 万円	6 %
799~600 万円	2 %
599~500 万円	6 %
499~400 万円	26 %
399~300 万円	36 %
299~200 万円	30 %
199~100 万円	46 %
それ以下	75 %

3. 課題を神学する

1) 教会籍

確かに「関係の多重性」は起こる(「それほどこの牧師としての発言か」)
 事前の契約確認(責任と権限を明確にし、立ち位置や議決権等について確認)と、
 複数教会によるより広い宣教論の合意が必要。
 ただし、ここまで「籍」にこだわるのは日本だけか。国際的に多重教籍は珍しくな
 い。アメリカでも兼牧を他派の教会と共にするケースもある。

2) 時空間をどうするか

見えてきたネットの可能性(身体性とは共在性のことで、逆ではない)
 そして日曜、午前中がすべてか?(礼拝と礼拝式の違い、同盟基督教団の例)
 1人の人間が出来ることを上回る仕事にならないよう、事前協議必要

3) 各個教会のミッション

契約共同体だからこそ可能: 人的共同体(お仲間)になっていないか?
 宣教理解: なぜ、何を(伝道、共同体形成、奉仕)、どのようにするか共有と、
 誰とするか多様性の確認

「牧師の仕事とは何か」をできるだけ明確に文書化すること（実際には柔軟に対応
するとしても）

4) 礼拝スタイル

宣教論として、礼拝や礼典の相互理解も重要

実際は一番人々に残る課題（トラディショナルとコンテンポラリー）

5) 聖書を読む

宣教とは、イエス運動を継承して、神の国を待ちつつ手を伸ばす働きならば
異なる者が、共に生きる神の国（イザヤ 11：6～9「狼は小羊と共に宿り」）
物語の合流（民衆の神学）

イエスの神の国の運動、物語は、異なる人々との出会いによって拡大し続けた
（マルコ 7：24～30、シリア・フェニキアの女性との出会い）

4. 具体的に

1) 実際のケースより

礼拝スタイルに満足せず、転会したケース

牧師のリードによる宣教論のすり合わせは大きい（連合を超えるケース）

大規模教会による小規模教会の「吸収」とならないように。「主・副」ではなく、
多様性のある教会として。（礼拝スタイルをそれぞれのままにするだけで、新しい
何か生まれえないのでは、経済的目的以上のことは出て来ず、実際には「主・
副」になってしまう）。

2) プロセス

牧師や各個教会は言いだしにくい

連合が主体となるのが望ましいのでは

連盟の役割：監督制にならないように、しかし情報提供や、マッチングの場として
物語の合流を生む出会いと対話：「一歩プログラム」から、地域交流へ

具体的な物語には、人は元気に献げ、協力したい（震災支援等の例）

多様な礼拝と信仰のスタイルの意味を経験、理解しておく

集まって異なるを知り、離れて共なるを知る教会（スパリアー『障がいのある教会』）

北九州連合の皆様の具体的な歩みから、これからも学ばしてください。御一緒に神の国を待ち、手を伸ばしていきましょう。